

こんにちは。ついにオーストラリアでの生活も残るところあと一か月を切り、約二週間ほどとなってしまいました。コロナウイルスの影響で飛行機の便数が格段に少なくなり、国際便もシドニーからしか飛んでいないという状況もあって、帰国日も12月上旬から11月下旬に早まる形となってしまいました。帰国が早まってしまったのは悲しいですが、心配していた途中帰国をすることもなく、無事に留学を終えることができそうで安心しています。ターム4はクリスマスホリデーが長いということもあり、8週間という普段より短い期間に大量の課題や試験が与えられます。オーストラリアでの最後の学期ということで、友達や家族と楽しい時間を過ごしたいのですが、どうしても時間が足りず勉強に追われる忙しい日々が帰るまで続きそうです。

今回の生化学(Biochemistry)の課題は、「地球温暖化によるサンゴの白化」をテーマに、文献調査を行い自分で考えたリサーチクエスチョンに対して答えるレポートを書くというものでした。私は「海水温上昇がどのようにサンゴの繁栄において重要である共生性渦鞭毛藻ゾーザンテラ(Symbiodinium: zooxanthellae)の数の減少につながるのか」というリサーチクエスチョンをもとに調査を行ったのですが、参考文献が25個以上必要とされていたので、英語の学術記事を50ほど読まなければいけませんでした。またそれに加えて、記事は全て専門用語が多用された論文や学術記事ばかりなので、一個一個がとても長く、読んでいくのは途方に暮れる作業でした。しかし、今となっては日本にいたときに苦労していた英語の長文の何倍の量もある文章をスラスラ(難しい単語はまだ調べる必要がありますが、、、)読めるようになることができ、自分の英語力の成長を実感しています。3週間以上かかった調査を終えて、私はリサーチクエスチョンに対して「高い海水温下での共生性渦鞭毛藻ゾーザンテラの数の減少は共生性渦鞭毛藻の過剰な有糸分裂によるサンゴ宿主の機能不全、またそれがもたらす過剰なサンゴの共生性渦鞭毛藻排出と選択的排出機能の喪失によるものである。」という結論を出しました。ここまで一つの事柄について深く掘り下げて研究したのは初めてで、学ぶ内容が同じでも受動的な学習と自分で研究を進めていく能動的学習とでは吸収度が全く異なるのだと実感しました。また論文や学術記事を読んでいて著者の中に何人もの日本人の方がいらっしゃったことに驚き、感銘を受けました。その方々は、英語で他の国の研究者の方々と一緒に研究や推敲を重ねた上で、その工程と考えをわかりやすく正しい英語で私を含めた世界中の人々に発信していると考えると、やはり英語は個々の可能性と世界を広げる最高のツールなのだと思います。研究者になれるかは分かりませんが、「英語」というツールをつかうことで将来何かしらの形で世界中の人々の役に立てる仕事に就きたいと思わせてくれた出来事でした。

オーストラリアに来てからもやっぱり好成绩を取らなければいけないというプレッシャーはあり、11月は課題や試験も多く少し辛い日々が続いていますが、日本に帰るときに胸を張って帰れるよう最後まで学校と英語の勉強を精一杯頑張ろうと思います。